

第1回 栃木県立馬頭高等学校 学校運営協議会 報告

I 開催日時 平成30年5月23日(水) 14時55分～17時00分

II 開催場所 栃木県立馬頭高等学校 会議室

III 出席委員 大金 市美 岡 道吉 大島 富美子 大金 武夫 大金 浩
小川 浩子 小川 正典 田島 良久 益子 洋子 笹沼 達彦
欠席委員 なし

IV 内 容

1. 開 会

2. 学校長挨拶 栃木県立馬頭高等学校 校長 笹沼 達彦

3. 栃木県教育委員会挨拶 栃木県教育委員会事務局学校教育課 課長補佐 長 裕之

4. 委員紹介 各委員自己紹介

5. 学校運営協議会制度の説明 栃木県教育委員会事務局生涯学習課 副主幹 吉田 正道

6. 会長および副会長選任 会長 大金武夫 委員 副会長 小川浩子 委員
(委員の互選による)

7. 議 事

(1) 会則の制定

- 「栃木県立馬頭高等学校 学校運営協議会 会則(案)」について、第5条「ただし」以下を削除することで承認

(2) 学校運営に関する基本的な方針の承認

- ① 教頭が「学校の現状と課題」を説明
- ② 校長が「学校運営に関する基本的な方針」を説明、全会一致で承認

(3) 学校の魅力化、特色化についての協議

※ 以下、出された意見を関連する項目ごとに整理

ア 地域との連携に関する意見

○町と学校との意見交換

- ・町と学校でどんな連携が可能か、意見交換をする機会を設けていただきたい。

○地域行事への参加

- ・地域のお祭りで若者が足りない。地域と連携し参加することにより、相乗効果が上がる。地域への溶け込みも魅力の一つではないか。

○地域へのPRの方法

- ・那珂川町にはケーブルテレビという素晴らしい武器がある。そこで「馬頭高校だより」のように様々な活動を発信し、PRしてはどうか。そうすれば、もっともっと馬頭高校が地域の人にも理解してもらえるのではないかな。
- ・学校のホームページ（HP）は中学生や高校生、保護者もよく見ている。ぜひ、HPをリニューアルし、中学生、高校生の視点、あるいは保護者の視点で魅力的なHPにしていきたい。
- ・就職を強く思うのであれば、各企業の方を卒業式に呼び、名を広める手段を取っていかなくてはならない。

○中学校との連携、中学生へのPR

- ・馬頭高校の生徒が地元の中学生に補習授業を行いながら、学校のPRをしてはどうか。中学生も馬頭高校の良さを感じ取り、自ら行きたいとなるのではないかな。また、馬頭高生も教える前に自ら学習し、自分の学力アップにも繋がる。
- ・水産科の生徒が中学生を対象に指導できるものがあるであろう。まずは水産科の魅力を地元の中学生にPRし、定員を超える倍率としたい。
- ・那珂川学の最初の発表を見て、私は、涙が出るほど感動した。あの素晴らしい発表ができたのは水産科の凄い力だとしみじみ感じ、それを中学校でも改めて発表していただいた。
- ・昨年度、那珂川学の発表会に馬頭中学の1年生全員が参加した。馬頭高校の発表に感動し、「ああいう先輩になりたい。馬頭高校に入りたい」という生徒もいた。

○那珂川学の発展

- ・中学1年生は、「地元を知ろう」という総合学習をやっている。中学生にも発表の機会を与えていただければその相乗効果で那珂川学がさらにステップアップしていくのではないかな。
- ・先程、那珂川学の説明を聞いて大変すばらしい実績と感じた。「町を知る」とことと合わせて町の課題とリンクしながら那珂川学を深めていき、理解することから行動することへと研究を進めていただけるとありがたい。

○水産科と地域との連携

- ・地域の休耕田を利用したホンモロコ養殖などにより、水産科や地域の活性化に繋がると良い。
- ・ホンモロコ養殖は、ノロや稚魚の死滅の問題、餌が高価など、課題が多く収益性が悪い。課題克服のため、ぜひとも水産科の力を借りたい。そして「那珂川町にホンモロコあり」とブランド化させ、町のことも含めPRしたい。
- ・ホンモロコを食べたことがない町民が多い。馬頭高校で商品開発できないかな。
- ・馬頭高校で商品開発をした魚醤の製造を町の業者に委託できないか。現在は道の駅での販売分程度しか製造能力がない。商工会とも連携したい。
- ・魚醤の製造量が増えれば、スーパーで販売のお手伝いはできる。

イ 人材の育成に関する意見

○企業の求める人材の育成

- ・校長が学校運営の方針として説明した「即戦力」を企業は求めている。また、面接をとおり、コミュニケーション能力や、部活動をずっとやってきたなどの経験や継続する力も見ているので、そのような生徒を育てたい。
- ・将来像を見いだせない若者が増えている。インターンシップなどをどんどん活用して生徒に将来像を見い出させてほしい。

○普通科における職業系専門科目の導入

- ・単位制の導入に伴い、農業科時代の農場を活用した「農業と環境」という科目を導入する予定である。また、商業については簿記を行うが、工業や介護については、施設・設備の関係上、実施は難しい。
- ・職業系については、深く専門的に学べなくとも、動機付けができ、インセンティブが高まれば良いのではないかと。
- ・農業については、地元の農業関係者が協力してくれるであろう。

ウ 学校の魅力化に関する意見

○教育課程の充実

- ・福島町長の講演の中でも触れていたが、鷲子山神社も魅力的なイベントや創意工夫を行ったから、道が悪くても人が集まるようになった。馬頭高校もぜひそういった視点で魅力あるプロジェクト、核になるのはやはり教育課程であろうから、来年度に向けて、魅力ある教育課程も含めて検討していただきたい。

○普通科における大学進学への対応

- ・今は大学に行かせたい保護者が大半であり、国も大学無償化を打ち出している。普通科を単に就職中心にすると、今のニーズから逆方向に行ってしまうと思う。普通科においてもある程度の進学をさせていかないと馬頭高校の存続は大変になっていくのではないかと。

○生徒の視点からの魅力化

- ・大人からの視点だけでなく、子供からみた学校の在り方、魅力というものもかなり重要である。生徒が集まってくれないと意味がない。
- ・現在、生徒を対象としたアンケートを予定しており、次回にはその結果を示したい。

エ 下宿の拡充・寮の設置に関する意見

- ・全体の流れとしては、少なくなっていく子供を取り込まなければならないし、地元の子を取り込めないなら、県外から連れてこなければならない。しかし、それには、受け入れる場所がない。このことも町として議論をしていかなければならない。
- ・下宿先がもっと充実すれば、県外だけでなく、町外からも生徒は集まる。魚が好きで、この学校に行きたいという子は各中学校に2、3人ぐらいつつはいる。それが実現できれば、もっと水産科の人数は増えるのではないかと。
- ・下宿先はやはり困難な状況である。校内にある合宿所、青雲館を整備すれば受け入れられるのではないかと。ただ、寮母や食事の問題などもある。町営住宅に置くわけにもいかない。できれば寮ができるとよい。

- ・県は寮はつくらないだろうから、つくるとすれば、町がつくるしかない。隠岐島前高校も町が協力している。
- ・町議会でも寮設置の要望が出ている。以前は、一般の家庭が下宿を引き受けてくれたのだが、今は手が上がらない。
- ・考え方として、町の企業の社員寮などで空いている所があればそこを借り、食事などは弁当や仕出し屋などに頼むことも考えられる。
- ・現在の下宿代は、3食の賄い付きで月7万円だが、町から2万円の補助があり、実質5万円の個人負担である。(事務局)
- ・2, 3人預かればいくらかの収入になるなど、ビジネスライクにならない限り「ボランティアで子供を引き受けて」では下宿は広がらないであろう。親の負担は引き上げられないので、町にさらに協力してもらうしかない。
- ・下宿生の受け入れ先は切実な問題である。これが解決されればもう少し、水産科に生徒が来る。そうすれば水産科の生徒の中から大学進学を考える生徒が出てくる。そうすると、水産科の頑張りに刺激され、自分たちも頑張りたいという普通科の子たちが出てくる。そのように相乗的に効果が上がっている学校を私も経験している。したがって、一番の課題である受け入れ先を何とかしたいというのが学校としての切実な願いである。
- ・箱ものをつくるのが難しい中で、寮や下宿を始める際の条件整理が必要ではないか。例えば、寮母さえいれば空き家を借りて部屋をシェアすることが可能であるとか、下宿でも、食事だけ作ればよいとか、あるいは、食事は弁当でよいとか。そのような条件を整理し示せば、受け入れ先が見つかる可能性はあるのではないか。

オ 今後の協議会の進め方に関する意見

- ・課題、委員からの意見ともに多い。これは頻繁に会議を開くか、あるいは分科会にすべきか。
- ・今日は取り敢えず総花的に意見を出してもらい、その中から事務局のほうで取捨選択してより深い話にしていくという形になるのだろう。
- ・今後は的を絞って議論を深めて、しかも委員会が行動できるような形で話を進められるとよい。総花的にやっても、話だけで終わってしまう。
- ・委員の皆さんには、本校が抱えている課題を共有していただけたと思うので、次回はテーマを絞って、熟議という形で時間を掛け深めていきたい。

(4) 今後のスケジュール

○以下のスケジュールで年間5回実施することで了解

- ・第2回目を6月下旬に実施し、可能であれば先進県の地域連携コーディネーターを招聘
- ・第3回目を7月下旬に実施、可能であれば学校・地域連携に関する先進市町を視察
- ・第4回目を11月初旬に実施、魅力化の取組に関する中間報告を行う
- ・第5回目を3月中旬に実施、学校評価および次年度の学校運営方針の承認を行う

(5) その他

○なし

8. 閉 会